

■野際遺跡の整理作業から分かる	古墳時代の暮らし！！ P1～2
■イワタ深掘り 文化財だより Ver. ③	・・・ P3
■歴史文書館企画展・歴史学習会情報	・・・ P4
■コラム『西の谷遺跡と銅鐸』藤田圭二	・・・ P4

野^の際^{ぎわ}遺跡の整理作業から分かる 古墳時代の暮らし！！

磐田市文化財課では、市立東部幼稚園（現・認定こども園ハローうさぎ山）園舎建替え工事に伴い、令和2・3年度に発掘調査をおこなった野際遺跡（東貝塚）の整理作業を現在進めています。野際遺跡の調査では、主に1650年前の古墳時代前期のムラの跡がみついています。今回は、出土遺物の整理作業を通して明らかになった古墳時代の暮らしをご紹介します。

豊富な木製品が出土

地下水が豊富に湧く野際遺跡では、通常では腐ってしまう木製品が多数見つかり、古墳時代の暮らしを垣間見ることができます。建物の柱の根元や、柱の下に敷いて地面に沈み込まないようにするための礎^{そばん}板といった建築材の他、農作業や土木作業のための道具が見られます。

木製農具『鋤^{すき}』『田舟^{たぶね}』から見る暮らし



鋤（推定長 80 cm）
身と持ち手部分の半分欠損

木製農具では、水田稲作で使ったと考えられる鋤や田舟が出土しました。

弥生時代に朝鮮半島経由で伝わった水田稲作は、それ以降、土木技術の進展や集団をまとめるリーダーの出現により、生産力を高めていきました。野際遺跡でも、鋤を使って田起こしや水路を掘るなど水田での農作業がおこなわれていたようです。鉄製の刃先を付けた痕は見られませんが、硬いカシ材を選んでいることから、木の特性を熟知していたと考えられます。深田で刈り取った稲は田舟に乗せ、ムラまで運んでいたのでしょう。

古墳時代の遺跡と言えば、大きな古墳や豪華な副葬品が大きく注目されますが、豪族たちの暮らしは配下の人々の労働によって支えられていました。



鋤身（残存長約 27 cm）柄の部分欠損



田舟（残存長約 90 cm）手前半分欠損、材質スギ

🐟石や土で作った道具『槌石』『土錘』『土器』から見る暮らし🐟

野際遺跡では、木製農具以外にも、様々な道具が出土しています。例えば、槌石と呼ばれる棒状の石が出土していますが、その先端には硬いものを叩き潰した痕がはっきりとわかります。何を叩き潰したのかは分かりませんが、木の実の殻を割って食べていたのかもしれない。



槌石（長さ約 7.5 cm）

また、漁網に付けた管状土錘も出土しています。形や大きさにバラエティーが見られ、網の用途によって使い分けられていたようです。野際遺跡の前面には遠州灘につながる潟湖が広がっており、漁も盛んにおこなわれていました。



さまざまな土錘（右端：長さ約 6 cm）

その他にも、鉄製の刃物を研いだ砥石や、食べ物の煮炊きに使われた甕などの土器も出土しています。甕の種類には、S字状口縁台付甕と呼ばれる、口縁部の断面がSの字状に屈曲した伊勢湾沿岸地域発祥のものが多く見られます。器壁の厚さが数ミリと非常に薄く熱伝導率が高い甕は、生活の質を大いに高めてくれたことでしょう。



S字状口縁台付甕の口縁部～肩部
（口縁部の復元径：約 15 cm）



S字状口縁台付甕の胴部～台部
（残存高：約 25 cm）

報告書刊行にむけて、引き続き出土遺物や発掘現場で記録したデータの整理作業をおこなっていきます。その成果については、文化財だより等でお知らせする予定です。

展示決定！

野際遺跡にみるイワタを支えた古墳時代の道具たち

2月7日（土）から、埋蔵文化財センターのトピック展示で、野際遺跡から出土した古墳時代の道具を陳列します。これらの道具から、先人たちの苦労や創意工夫の様子をうかがうことができます。ぜひ古墳時代の「イワタ」を支えた道具たちに会いに来てください。

- 場所 磐田市埋蔵文化財センター
トピック展示コーナー（磐田市見付 3678-1）
- 期間 2月7日（土）～4月26日（日）
（休館日：2/11・23、3/20）
- 時間 午前8時30分～午後5時



イワタ 深掘り

ーイセキでワクワク♪タイムトラベルー

文化財だより Ver.③

けんしやうじ
見性寺遺跡

磐田市合併から 20 年の間に発掘・整理をおこなった遺跡を紹介するシリーズです。今回は見付地区の見性寺遺跡を取り上げます。

見性寺遺跡とは

見付にある見性寺の境内周辺に広がる遺跡です。昭和 16 年に貝塚が発見され、昭和 44 年の調査で貝塚や縄文土器が見つかったことで、縄文時代の遺跡としてより広く知られるようになりました。

調査結果

店舗建設に伴い、平成 30 年度に第 8 次発掘調査をおこないました。その結果、貝塚が営まれていた時期以降の遺構・遺物が多数発見されました。

主な遺構は調査区全体に渡る柱穴・土坑で、多くは平安時代のものでした。土師器の甕や鉢、土錘、カツオ類と思われる魚骨片など、様々なものが 1 つの土坑からまとまって出土しています。そのほか、古代の灰釉陶器や竪穴住居跡、中世前期の山茶碗なども見つかりました。

また、見つかった平安時代の遺構・遺物は、その頃見付に移転したと考えられている遠江国府に関する施設のものであった可能性があります。出土遺物の中には遠江国分寺式の軒平瓦があり、当時、瓦で葺いた建物は寺や公共施設だけであることから、国府関連施設に葺かれていた瓦であると推察できます。

見付と舟

平安時代末期の舟に使用されていた木材が出土しました。大型の木材は貴重であったため、井戸の枠に転用され、鎌倉時代まで利用されていました。

少なくとも 3 艘分の舟材が見つかっており、それぞれ全長 5m 以上の丸木舟であったと想定されます。材質はスギ、マキなどでした。いずれも耐水性に優れた針葉樹で、加工が容易な材です。



井戸に転用された舟材
約 147 cm



見性寺遺跡位置図



出土遺物



国分寺と同じ文様の瓦



鎌倉時代の井戸

古代、見付は潟湖（『万葉集』にも詠まれた「大の浦」）に面し、遠州灘ともつながっていました。当時の人々は舟を利用して移動したり物資を運搬したりすることが可能でした。この水運の利と、東海道による陸運の利が、遠江国府が見付に置かれたことにも関わっていたと考えられます。

見付大久保家を彩った人々

遠江国の惣社「淡海国玉神社」(見付)の神主職を代々務めた大久保家。その歴史を彩る人間模様を文書・書簡・古写真等をとおして紹介します。

今回、新たに公開する予定の資料にもご期待ください。

展示 入場無料

- 期間 2月11日(水・祝)～2月15日(日)
午前9時～午後6時(土・日・祝日は午後5時まで)
- 場所 磐田市立中央図書館1階展示室(磐田市見付3599-5)



磐田文庫

歴史学習会 入場無料・要申込み

- 日時 2月11日(水・祝)午後1時30分～午後3時
- 場所 磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール
- 演題 「磐田文庫と遠州国学」(目録調査をめぐって)
- 講師 天野忍氏(元静岡県立中央図書館長)
鈴木健多郎氏(國學院大學研究開発推進機構ポスドク研究員・宗教学博士)
- 定員 100名(先着順) ■申込み 電子申請(右二次元コード)にて受付中



申込み二次元コード

問合せ 歴史文書館 TEL:0538-66-9112

職員リレー コラム

西の谷遺跡と銅鐸^{どうたく}

藤田 圭二

私は、旧豊岡村の敷地の生まれで、平成26年度をもって廃校となった豊岡東小学校の出身です。学校から帰ると、近くの野原や山で友達と遊んでいました。もちろん西の谷地区にも友達がいたので、何回かは「銅鐸」の出た場所にも遊びに行っていました。

銅鐸は弥生時代を代表する青銅器で、まつりの道具として使われていました。大きさは20cm前後のものから100cmを超える大型品まであります。市内出土の銅鐸は敷地地区内の西の谷遺跡から3口発見されています。そのうちの2口は明治23年(1890)に地元の人たちが山芋堀りに出かけたとき偶然発見したそうです。この情報は、こどもの時から聞かされていたのですが、当時はそれがどういう物かも分からず、平気でその近くで遊んでいました。



敷地3号銅鐸

時は流れ、平成12年に新東名工事に伴う発掘調査で「敷地3号銅鐸」が発見されました。その時のニュースに驚いたことを今でも鮮明に覚えています。自分たちがこどもの頃遊んでいた場所にこのようにすごいものが埋まっていたと知った驚きと喜びは、なぜか自分たちまで有名になって認めてもらったような感覚になりました。これらの銅鐸は、深い眠りから覚め、何千年も前の人々が現代に話かけてくるような感じがしてきます。また、現代の我々に発掘されるのを待っていたかのようにも思えてくるのです。

編集後記
チョコレートに心躍る季節になりました。
“期間限定”“特別デザイン”などの言葉と
共に画面に表示される甘い誘惑に、今年も
勝てそうにありません。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田 文化財だより](#) [検索](#)